

翻刻資料Ⅱ

講義ノート「一般教養（新村猛先生）
（6.10 趣意書ニ依ル）」

須 永 哲 思*

【凡例】

資料の翻刻に際しては、以下のように行った。

- ・原則として、旧字体は新字体に改めた。
- ・歴史的仮名遣いについては、原文のままとした。
- ・汚損等で判読が不可能な部分については「×××」で表した。
- ・判読困難な部分については「○○○」で表した。
- ・誤記や書き損じが傍線で抹消されている箇所には、傍線（「⊖⊖⊖」）を付した。
- ・誤記や書き損じが傍線で抹消され、誤記の前後左右に訂正された文字の加筆があり、抹消部分が重要な意味を持つとは考えられない場合には、抹消前の文字は記載せず、訂正後の文字だけを記載した。
- ・明らかな誤字・誤記については、〔 〕に正しい字を記したルビを付した。
（例：「名与^{〔譽〕}革^{〔命〕}名」）
- ・明らかな脱字については、本文中に〔 〕に必要な字を補った。
（例：「戦争は如に起きるか」→「戦争は如〔何〕に起きるか」）
- ・固有人名については、必要に応じて氏名表記を本文中に〔 〕で補った。
（例：「ベルーツ〔Henri Bergson〕」, 「弁護士日本側清瀬〔一郎〕博士」）
- ・講義ノートの紙面イメージを再現するため、なるだけ原文に近い形で、下線や波括弧を付し段落替えを行った。

*すなが さとし 京都大学人文科学研究所

^[ママ] 1 般教養（新村猛先生）（6.10〔1946年6月10日〕ノ趣意書ニ依ル）

数世紀（桃山・安土時代）

封建時代（公卿政治と武家政治の並行して行はれた時代）

名^[誓]与^[命]革名（議會等円滑に行はれ日本人は誇りとした その為に斯く唱へられた）

ボツダム宣言（進駐軍の目的は果して日本に於てミユズリ条約^[ミズーリ]）が果されるか否かを見守る為

民主々義国家の強化

民主々義国家の強化＝平和愛好

今までの軍国主義を廃し戦争しない平和愛好の上には民主々義国家にするのが最も適當と認めたからである。主權に新しい理想を見出さなければならぬ国民の務である。

宿命的

社会たるもの学問の精華によつて果たされるものである。（学問に対する熱情）敗戦の結果我等は独立主義でやる事は出来なくなった必ず連合軍の協力^[調]を強張しなければならぬ、こと、又それが正しくなつた。

・ゲーテ〔Johann Goethe〕曰く（世界公民と云ふ主義）

・モンテスキュー〔Charles Montesquieu〕三憲分立〔^[権]立法／司法／行政〕フランス十八世紀家族の為にも何時でも自己の利益を捨てる、又国家の為には何時でも自分の家族の利益を捨てる 世界の為にはフランスの利益を捨てる。

1〔以上、ノート1頁目・見開き右側〕

地球を故郷とする時代の到来は何時？

国家のみを祖国としない。

農民は民主々義によって改革されて居ない。（地代等）

重要な産業は殆んど公営となつて居る。

日本の生産力が多く軍事上に使用され我々の上には用ひられなかつた。

ベルーツ〔Henri Bergson〕（哲学者、フランス）フランスの三百年際^[三]のメッセージ

思考の人と行動し行動の人として思考す。

国語 最も古くから多く残つて居る言葉は支那の後

漢時代（応仁天皇より遙かに古い）

漢字も日本に到来する。

倭人伝（支那歴史の本）

最も古きものは三国志の記す

魏志倭人伝＝日本の推古天皇よりの御代に書かれて居る。

卑^ヒ奴^ナ母^モ離^リ（夷守）後漢書にも出て居る、倭人伝に習つたもの

古事記…奈良朝時代に出来る

平仮名（弘法大師）

片仮名（吉備真備）

阿 伊 宇 江 於

ア イ ウ エ オ

〔以上，2 頁目・見開き左側〕

17/6 〔1946 年 6 月 17 日〕

戦争に関する要項（大東亜戦争）

联合国対枢軸国（思考としての行動）第三者国

国際正義感（強シ）平和愛好はむしろ联合国にあった。

国際主義より民主主義の方が正しい（アメリカ側）が民主主義の行動が最も近い。）

戦争犯罪（war crime are ^(criminal) minal）

（弁護士日本側清瀬〔一郎〕博士，アメリカ側キーナン〔Joseph Keenan〕博士）

1922 年にパリに於て不戦条約が結ばれた日本側も参加した

人民の心意を問はず人民の斯も道に添^(沿)はない條約？

些細なる事にも罪せられ一人を殺して死刑となるなれば多くの戦争死者を出し故にそれを

起した者に対しては当然罪人となるは当然である。

戦争の敗戦には関しない。

第三者の立場から

日本の南方政策 聯合軍側の弱点について居た。

目的が正しくとも手段を持って行かなければならない，

日本側に聯軍側より立派な人が何人居たか，

日本側に勝つ見込の工業力があつたであらうか。

見込のない戦争

戦争の理由が如何なるものであつたかは今後の作品に見出して来る。共同の理性を全うす

るには犠牲を払はなければならない。 万物靈長

2 〔以上，2 頁目・見開き右側〕

24/6 民主主義と政治 [1946年6月24日]

selfrule

^[government]
government (政府を治める事) (統治)

any social (社会集団 (グループ))

group 如何なる社会集団にも group がある。

宣政的と民主的

集団に於ては多数の人々の自由なる意見を吐露し合ひ

その結末を付ける。多人数の賛成を得て、

即ちデモクラシー民主主義である。

人民自治

人民全体に自治の^(能)脳力あるものを認めて前提としなければならない。

他人の意見と自分の意見の相違観察

自我に対する^{ヨク}抑制 (デモクラシー)

自由とはやりたい事をやる事ではなくやらなければならない事がやれること。

多数決には主愚があり勝ちである。多数決ばかりが正しいとばかり云へない。

主義, 院裁

多数の意見を聞き結論を議長が決める。

arbeits dienst (ドイツ語) 勤労奉仕 (多益)

<welr

dienen to serve (仕へる)

[以上, 3 頁目・見開き左側]

こうした概念は封建時代の思想である。

衆たるものは愚であると、然し我々は愚たる衆を智としたい。又しなければならない。

国家に財政の乏しくなつた場 [合] 都合のよいのは奉仕である。

^[agitation]
Any asition

・^{チドウ [地動]}地 道説は現在に於いて認めるに至つた。

自然会に於ては嘗て否認された学説も終ひに認められるに至つた。

人文科学に於て地球の動説それらに於ては意見まちまちである。が何れは認める様になる

だらう。

^{デカルト}
Descatse [René Descartes]

民主主義=合^(理)利主義

教育を重んずる (アメリカが最も盛) 民主主義と教育は密接な関係を持つ。

理性によって^{〔理〕}処理する最も大切な事は理性によって解決しなければならない
民主政治は自主自治でなければならない それには各人がその自覚^{〔能〕}脳力を以て居なければならない。

人民自らの生活を支持する^{〔能〕}脳力を持つて居る
民主主義は愚者である愚者は学問教育によつて哲者と高められる。それに反論するものは
極度に反対し教育の程度を然める。民主主義にとつては教育の程度を高くする事肝要である。

3〔以上, 3 頁目・見開き右側〕

日本の教育を高めて行けば平和愛好の国家となる。
進駐軍の最も注目する点である。

8/7〔1946 年 7 月 8 日〕

思考の上より	◎ 戦争とは何ぞや	}	戦争は如〔何〕に起きるか
思想の上より			人類にとって影響
			戦争は好まし—いか否か—くない（生命の尊さ）
			如何なる戦争が正しいか
			過去の戦争が如何なる戦争であつたか
			（民族主義とは如何なるものか）
			如何なる戦争なら我々撲壊し得るか、また如何なる戦争が苦しいか（現在の生活を対象として）

quakers

conscientious objecter^{〔objector〕}

平和愛好（目標）— 日本国民の為に祖先の為に

^{〔Civilization〕} Civilization 文明（野獣から追々開けて来る）

Culture, Kultur

culture=耕す, { Kultur=民族について, 文化
Bildung=個人については教養

{ 明治古き時代に於ては「文化」（文明）の言葉は余り使用されなかつた 明治大正に至つて,
「文化」の詞を^{〔感か〕}感に使用されるに至つた。

文化=人間の精神活動,

文明＝物質的生活状態を云ふ

family }
community } of nations

〔以上、4 頁目・見開き左側〕

明治時代の輸入思想 18, 19 世紀 文明強し

進歩哲学の輸入, 政治 (ドイツ)

政治, 文化の発生の源を辿れば経済の原始を問ふ

(経済水準) 結局経済に殊に文化の発達を見ることが判明する (物質文明)

物質文明のみ取り入れて精神文明を余り取り入れなかつた

(徳川幕府の行為)

国文学 (万葉集) 西洋文化との比較

英語…欧米の性態を知らんが為。

(第二) 如何に進むべきか (犯罪者を^{〔対象〕}対称として)

勉学を求むるは真実を求むるにある。

犯罪生徒に対し遂に退学と決定反対者は殆んど見なかつた理由, 単に同情に当るのみ, 何等
彼を止むるにその公然たる根拠を持たなかつた事

小を殺して大を生かす, 事に依つて弁じられた。

「汝身^{〔自〕}らを知れ」ソクラテース曰ク, デモクラシーは単なる目的に非ずやり方に過ぎず^{〔少〕}少数
の意に決するより多くの人を事に参与する, と云ふにある。

多数の意によれば^{〔少〕}少数の者によるより意見の主張に依つて^{〔少〕}少数の者に依るより又以上の及ば
ざるヒントを与へしむるに事は正しい方向へと進められて来る。デモクラシーの根本はそ
こにあると新聞社は唱へて居る。

学校の目的 (真実を極める)^{〔勉〕}悪くまで学校を主態とする態度。

勉学を通じて我々を磨くと云ふ事 (当人に真実性の乏しかつた) 虚をつく意志の弱さ。

「善人でさへ往樂するまして悪人は往樂する」然らば悪人は弱者たると云ひ得る。

4 〔以上、4 頁目・見開き右側〕

(torsty [Leo Tolstoy] は人道主義者であつた) (ファシズム)

教育 (個性の発揚個性 (天性) の尊重)

訓練 (learning)

condorcet [Marquis Condorcet] (人間精神の世界史) discipline

デモクラシーの軍事教育と国家主義の軍隊教育の違い

Lessing [Gotthold Lessing] Spinoza [Baruch Spinoza]

人間たる者は元来は穢れて居ない それを教育に依つて一層向上進歩に導き出す（デモクラシーの行方）

人間は悪である（根本は）そうしたものがた教育に依つて他方に^{〔換〕}変遷^{〔換〕}圧迫的に変質させようとしたもの（国家主義ファシズム）

軍隊教育に於ける全国共通性。

Thomas Jefferson（独立宣言を書いた人米第三大統領人権制限）

natural rights（自然権）

生命，人間性の尊長（米）

{ 人間性の尊長^{〔重〕}無視したる教育の根本精神の問題（軍隊教育）
そうしたものが波及した臣民を斯くしからしめたと説く。然して軍隊的教育の如何に影響の大きいか。

真実の探求に依つて本人の特質，人格を磨き上げるのである。

人智，進歩思想を抱く，勉学，^{〔能〕}脳力に対する信頼，あらゆる点に方法の対立を見る（デモクラシー）

obscurantion, obscure, discipline training

世界観，懇求希望の基礎たる社会観

聲名，自由（米独立宣言の言葉ジェラルソン [Thomas Jefferson]）幸福の追求

natural rights（天賦人権）外観から見ると自然法

〔以上，5 頁目・見開き左側〕

仏国 人権宣言（生命財産）

武士道とは死ぬことをみつけたたり（業陰精神）

生きる事をみつけたりと云ひたい（デモクラシー）近代精神，ヒューマンイズム

人生 25 年に対して，総ての人が生物個体としての生命

環境に適合した常会^{〔重〕}考へ方，場合に依つては逆な場合もある，現代の環境に依つて人世 25 年も止むなしであらう。

個人の自由，祖国の自由，生命を捨てるのも尊い，然し尊い生命を守りながら生き抜く尊さ（生命の尊さ）

プルードン 財産は盗んだものだと云つた品物だと云つた（世界大極から云つたものである）

然し現代の社会主義は斯くは云つて居ない。

confraternity（共同体，関係体）frater（兄弟）

自由は認識された必然
又判断が感性契機に依つて働かされない
人間としてなすべき事がやれる

Revolution

Glorious 1215 Magna Carta

1688 1627 Bill of Right [s] Charles A Beard

憲法たるものは民主的であること（古い憲法は民主的に非ず、憲法にして憲法に非ず）

今後の憲法施行は我々運用如何になる。

Charles A Beard

第一章 「我々人民」のみである。人民の如何に尊さ重点を置くべきか

5〔以上, 5 頁目・見開き右側〕

（公民教育）

一般社会の反影^{〔映〕}（排他的）家庭に於けるも子供が外に出てワンパクをする然七家庭に於ける反動的なる行動なり。過去の家庭，主人が妻を圧迫し，そこに妻はその反動を子供に持つて来る（盲目的愛情）

自分の子供に比し他人の子供の愛情全く浮薄なるも反社会的なる思想。過去の習慣が斯くさせたもの。（他人の子供の死も我子の転んだ程にも感ぜず）と或人曰ク

「主人の怒」子供は父は恐ろしきものと思ふ。然し妻自身も或は夫が恐ろしく感じて居るものではなからうか。もし恐ろしくなければ所謂「カカ天下」と過去は云って来た様に思ふ。夫に対する遠慮，恐怖，自分の罪を（家庭に於けるよその失敗）を妻自身すら夫にかくさうとする。最愛なる夫，最も信頼せる夫の前に妻すら偽らなければならない。過去の思想がさうさせたのであろうか。妻が夫に随ひ従順なり下向きなものは日本の家庭に於ては美しきものとされて来た。又男（夫）もそれを満足して来たのであろう恐らく。夫に対する恐怖もそうした所から起りしとも考へらる又過去，女の生活力のなかつた事，社会の女に対する待遇さうした所から女には夫なくして生活出来得ない心細さ，それをつけ込む男

夫の妻に対する（オイ）妻が夫に対する（あなた）もやはり一搬^{〔搬〕}に於て男性の女に対する言葉使，女が男に対しての言葉使の上から見て教養の程度如何にか、わらずそうしたものやはり封建的なものから出たのであろうか。然らばもし男女平等なる言葉使ひをするならば外部他人の場合は別として，夫婦の間等兄妹の間柄等に於てどんな結果となるであらう習慣として笑かしげなるものが

〔以上, 6 頁目・見開き左側〕

出来上るであらうと思ふ。然しこれが突然なのであらうか「主人」「旦那様」なる言葉が実現して居る限り不可能であらうと思はれる。

〔国語に曰ク所謂「こなた」「そなた」女に使ふ言葉と區別されて居る。
既に女と男と區別された言葉、純粋^{〔粹〕}の日本語、古風の日本語

やはり

理論のない実践は地図なくして探検に率いて居るも同様盲目的なるものがある。理論の上に於ては常に他人の意見と自分の意見とを比較して見る。

学校とは一真儀^{〔徳〕}を極める。

二十世紀講座 — adult education（成人教育）

cityen citizen curitas → city（都市国家的）

bürger weltbürger bourgeoisie

obscure obscurantism(t)

道德の程度高まれば高まる程その国家の基礎は強固なるものと認められる教育の向上

過去の adult education は民主的ではなかつた。今度の 20 世紀講座は斯くのもとに行はれる

といふ。^{〔collaborationか〕} (creobliton 協力)

^{〔service〕}
Suvis — 奉仕の精神

北京の生活学校〔自由学園北京生活学校〕（山室群平〔山室軍平〕氏令嬢山室光子の献身的教育）

異国の民に対する教育（世界公民）終戦当時の状況

教育は単なる制度でなく理想でなく。

violence

force

6〔以上, 6 頁目・見開き右側〕

暴力 人間が人間に対して^{オホカミ} 狼の如きは全く原始時代である。個人的なテロリズムは全く否定すべきである（意見の衝突, 思想の違いから）

個人, 個人（例へば失意の如き）の殺害事件等は人文主義教育に反対する（我と教育に対し）

1. 国家権力 (power, (仏) pouvoir ^{〔sovereign〕} (sovereion (主権), sovereignty (統治))

2. 戦争の関係

3. 革命

1) 権力たるものは暴力の性格を帯びて居ると云ひたい（昭和八年の滝川事件等の如き）

事実の論理を謂ひたい。権力は決して暴力ではない是が暴力となる。国家権力, 政治権力の必要な社会が来るか否か

暴力を追求するにそこまで深めたい。

- 2) 権威 (authority) 威信戦争に依って成功を治めると威信の^{ヨウ}変容す (ファシスト ナチス 東條 [英機] の如きを見て知るべきである)

絶対主義 (absolute monarchy) (絶対王政主義)

基本人権 = 自然権 = 天賦人権

中世近世に於ては民主と政治の全く分離したものであり団体も自己の訴へに依り参加するに非ず即ち強制的なる性質を持つて居た。然し近代に於て我らが自分の自由主義に基いて参加するに至った。

1. ウォーレス [Henry Wallace] (副大統領) ルーズベルト [Franklin Roosevelt] (大統領)
民主主義発展, 民主主義的自由
政治学の方より云へばファチズムもナチスも同様である。

[以上, 7 頁目・見開き左側]

昭和八年頃ザイドの「ファシズム」の訳本

反ファチズム, 反対運動即ち平和と自由の愛好

参加者ロマンローラン [Romain Rolland], アンドレザイド [André Gide], キュリ夫人 [Irene Joliot Curie] 等

此の大会には貴族も居た。又キリスチャンも参加した。

民主主義の理想即ち生活水準引上平和愛好自由尊重等含まれて居る。西洋に於てはその民主的自由を護らうとする気持に甚だ強いと云ひ得る。

ギミドロフ [Georgi Dimitrov] の社交運動起る (国家議事堂に火をつける)

即ち民主的自由から。

原則の強さと云ふものは時と場所を超越して守らなければならない。

昭 13 年の秋, ヒットラユーゲントの来訪

一部の生徒, ユーゲントに対し書類を焼却した事を抗議した

集会の自由言論の自由出版の自由を認めるべきである

我等の教育, 民主的自由の反動, それのみに非ずも先づ確立したい。

新憲法に於て如何に集会言論の自由結社等記されてあつても○主が明らかに共産党弾圧が明らかとされて居る。

自分で一回定めた事に何の論據も持ち得ない故にそれに対し弾圧された時その自己の定めた事を護り得る事の出来ないと言つた結果を生み出す (空をむいてツバを吐く如し)

昭和八年 ドイツに於てはナチス, 京都に於ては滝川事件

7 [以上, 7 頁目・見開き左側]

arise（遍く）

（学問の自由）

academic freedom ^[freedom]（滝川事件の記念として集った機関誌）

昭和 11 年 2. 26 事件 益々政党○○の

自らが熱 ^[判読不可、インクにじみ] × × 実行者とならなければならない。

dogma seet ^[settler colonialismか] seetconalisme

wahrheit ^[判読不可、インクにじみ] × × Party ^[partisanship] parti sans hip

dearitic ○○○○ ^[判読不可、インクにじみ] × × 党の仕方 ^[parteilichkeit (党派性) か] parteich kait

Mr. Kuno [久野収]

学問の自由

1. 社会的背景, 学問的知識
2. should be disinterested
3. 目先の知識の切売りであるない。

社会の進歩のため新しい知識を発見する

文明社会の知力の最前線の最大の拠点

経済的援助を与えてくれる相手に対して一般の contract 関係では云うことをきくべきであるが事, 学問に関する限り不然

大学の自由の compensation としての責任を自覚すること

大学の特権は人民の進歩のため許されてゐる

近代の言論 集会 結社 出版の自〔由〕の一部としてのみ大学の自由はある。真理が生成発展してゆくための栄養分は自由である。

人権	natural rights	} 天賦人権
	^[laws] Natural lows (自然権)	

7 [以上, 8 頁目・見開き左側]

生命の期限 ^[起源] ホーパス [Thomas Hobbes] の思想

独立宣言

人権宣言（人権と公民との宣言）

déclaration des droits de ^[l'Homme] l'luoen

人権（16, 17, 18C に起りし宣言）

権利生命と幸福の追求

人権思想は中世の末期封建思想に反動して起りしもの

歴史学の盛んな時代, 浪漫時代

ルソー〔Jean Jacques Rousseau〕曰ク（自然に帰れ）不平等起源
宗教は超自然的である（デューイ〔John Dewey〕）

16, 17, 18C に於ては人権は認められるものと当知識人は唱へた
故に革命の原動力となった理由である。

人権思想は最もしいたげられて居た時代に起つたものである。

自由, 生命, 平等を尊ぶ思想 欧米に於ては成立したが日本に於ては遂げられなかった。

life vie (仏) Leben (生) vita (独) 生産, 生命, 生活 命 性

credo (信條)

生命をコウ毛〔薄〕の軽きに比すと唱へた 即ち 生命の尊さを意味す

ロバスピエール〔Maximilien de Robespierre〕はダントン〔Georges Danton〕一派をギロチ
ンにかけた。Ri16世〔Louis XVI〕もマリアントネット〔Marie Antoinette〕も 然しロ
バスピエール自身も遂にギロチンの露と消える。

仏革命恐怖時代に死んだ人も多かりしがナポレオン戦争で如何に多かりしか 何百万に如か
ず。

8〔以上, 8頁目・見開き左側〕

日本に於ては戦死者現状そうした現状を知らさなかつた

即ち戦争の参加者をにぶらせない様につとめた

然し仏革命のあの実状を明確に知り得れば日本に於ける歴史の歩みは全くのろく感ぜらるゝ。

戦争に喜んで参加したのはむしろ生命を惜しんだからだと思ふ

戦争に行つて生命を的にして戦ふよりも人権を無視して権力を奪ふ者と戦つてほしかつた。

命が惜し〔い〕からこそ戦争が出来ると云ふパラドックス

サーベルの一人歩き（サーベルは人民を切る為ではない）中井

軍事施設は人民を守る為に造られんものがある然るに戦争中の国家は「人民家に害はあれど
軍事施設に害なし」と全く使命を転倒して居る。

戦争を動物間に於ける生存競争と考へる方法もあるが誤解と思ふ。

〔以上, 9頁目・見開き右側（左側は白紙）〕